

佳作

ぼくの弟

神奈川県 逗子市立逗子小学校四年 小林 剛大

「たけに弟か妹ができるかもよ。」

と、お母さんがとつぜん言った。ぼくは、

「え?!」

と、おどろいた。ぼくは、今までずっと一人っ子、兄弟はいなかった。そして、これからもずっと一人っ子だと思っていたから、うれしかった。

でも、本当に生まれてきてくれるかな?と心配になった。それは、学校で赤ちゃんが生まれてくるかくりつはとても低く、三億分の一と習ったからだ。

そして、お母さんのおなかはどんどん大きくふくらんできて、おなかの中には男の子がいると教えてもらい、ぼくは楽しみな気持ちでいっぱいになった。ぼくだけでなく、家族や知り合いの人たちも、みんなよろこんでくれた。そ父母も楽しみにしていて、みんながえがおになった。

いよいよ運命の日がやってきた。父さんも病院に

行き、ぼくは家でれんらくを待っていた。ドキドキしていた。お母さんも赤ちゃんも大丈夫かな、大変だろうなあーと一人で不安になってきていた。すると、父さんから写真が送られてきた。

「ぶじに生まれました。よかったです。」

次の日、ぼくは弟に会いに行った。弟は、二千九百九十グラム、とても軽くて小さかった。正直、かわいさがまだ分からなかった。

でも、ぼくはお兄ちゃんになったんだと思った。これからは家族四人。小さな弟を見て、なんか分からないけれど、ゆう気がわいてきた。ぼくの毎日が変化した。

ぼくの弟の名前は、ぼくの大好きな野球選手と同じ名前の『恵大(けいた)』になった。

恵大は、日に日に大きくなり、どんなことをしていても、かわいい。ないていても、うるさくしていても、おこっていても、ねむっていても、もちろん笑っているときが一番かわいいけれど…。さらにとてもよく動く。足をバタつかせたり、回転したり、ね返りもしたりする。ずっとそばにいたいと思ってしまふ。

一年後、恵大は歩けるようになるだろう。そして、話もできるようになるだろう。ぼくたちには楽しみ

でいっぱいだ。恵大ができるようになることが毎日ふえている。

少し大きくなったら、おままごとやおみせ屋さんごっこをいっしょにやって遊びたい。そして、おでかけもたくさんしたい。いつかキャッチボールもしたい。

十才も年下の弟。もしかして、兄としてこれからはやむことがあるかもしれない。でも、今の気持ちをわすれずに、兄弟なかよくすごしていきたい。今、恵大に伝えたい。

「生まれてきてくれてありがとう。」